

吹井浦
和泉國

高師浦

須磨浦
國

紅葉かな、紅葉、わくらはにとふ人、こりすまのうら、戀もしほたれ、くゆる煙舟、五月雨、雁、千鳥、やくちむ、霧なぎたるあさは、めもはるに、關守し、ほひに玉もかる、松、しほのうらに玉もかる、あま飛雲、うら松の葉、ごしにおつる月、すまのうらに玉もかる、いまだえ、あまのいさり火、とまや、あま飛雲、うら松の葉、ごしにおつる月、すまのうらに玉もかる、月時雨、たびねする雪、やくしほのひる時ぞなき、うきれ、衣うつ、春の夜の、すが浦、近江、高島のありしは、つすがうら、住吉浦、攝州、きしの姫松、行幸、藤、松、玉も、眞砂、きし、うつ波、數しまの道月しき波、いまかく、こぐらん、をあらはれ出しちかひ、五月雨、あら人神、うつせ貝、みをづく、し、住吉の松は昔の二葉、より久しきことと、のためしにぞひく、

〔諸州めぐり三和泉〕吹井の浦、淡信連より三里許、名所也、民家多し、海濱左右に山の出崎あり、和泉國の浦々の内にて、最佳景也、○下略

〔金葉和歌集懸〕堀河院御時、艶書合によめる、○中返し

一宮紀伊

音にきくたかしのうらのあだ波はかけじや袖のぬれもこそすれ

〔書言字考節用集二乾坤〕須磨浦、攝津八部郡

〔海上行囊抄一〕須磨、自兵庫到于此一里、自駒ガ林一里ニ近シ、

須磨トハ、駒ヶ林ヨリ一ノ谷ノ中間ヲ云東須磨、濱須磨、西須磨トテ三段ニアリ、

〔古今和歌集雜十八〕田村の御時に、事にあたりて、津の國の須磨といふ所にこもり侍りけるに、宮のうちに侍りける人に遣はしける、

在原行平朝臣

わくらばに問ふ人あらばすまの浦に藻鹽垂つ、わぶと答へよ

〔源氏物語十二〕須磨御舟にのり給ぬ、日ながき比なれば、をひかせさへそひて、まださるの時ばかりにかの浦につき給ぬ、○中おはすべき所は、ゆきひらの中納言の、も鹽たれつ、わびける家居ちかきわたり成けり、○中御返かき給言の葉思ひやるべし、○中略

あまがつむなげきの中にしほたれていつまですまの浦とながめん、きこえさせんことのい